

## Contents

- 02-05 商品ものがたり  
**コープのお店の地場野菜**
- 06-07 特集  
私たちの戦争体験談
- 08-09 知ってる? 食の安全・安心  
冷凍食品は安全?
- 10-11 information/【お知らせ】平和のトークコンサート
- 12 ヒバクシャ国際署名にご協力ください
- 13 子育てぺちゃくちゃん  
夏休みのお昼ごはん
- 14-15 読者投稿コーナー ほっとTIME
- 16 四季彩ごはん



夏野菜のキーマカレー



## 持続可能な社会の 実現と生協の役割

私たち京都生協は創立以来、助け合いの組織として、誰もが笑顔で暮らすことができ、持続可能な社会、安心して暮らせる地域社会の実現に向けて取り組んできました。2015年に国連総会で採択された「SDGs」(持続可能な開発目標)は、2030年までに持続可能な世界・社会を実現するために確認されたものであり、協同組合の役割発揮が期待されています。紛争や飢餓・貧困、食糧資源の確保、気候変動による災害など、課題は山積しています。一見すると豊かに見える日本でも平和の問題、食糧資源確保や食品ロスの問題、子どもの貧困問題、農水畜産業の担い手の高齢化などの深刻な問題があります。

一人ひとりの暮らしをより良くしていくと同時に、私たちの暮らしと関係する地域社会の課題についても、学び、そして協同の力で取り組んでいきたいと考えます。



理事長 畑 忠男

商品ものがたり

# こだわり野菜に込められた つくり手の想い



ヴィレッジトラスト つくだ 農園

▲みずみずしいつくだ農園のきゅうり。あとは収穫を待つばかり



修学院 扇子

▲まぶしい笑顔が印象的な「修学院 扇子」の扇子次郎さん



▲つくだ農園の有機JAS認証を受けた圃場。取材に訪れた時期はきゅうり、なすなどの夏野菜が青々と茂っていました

コープのお店の一角「地場野菜コーナー」に並ぶ、色とりどりの野菜たち。京都生協では地元の農家を応援し、また穫れたての新鮮な野菜を組合員へ届けるために、地元で穫れた野菜を地元で食べる「地産地消」のとりくみを行なっています。

特に2017年は京都府内量販店で、魅力的な京野菜コーナーの設えを競う「京野菜マルシェディスプレイコンテスト」にて、コープの

お店6店舗が入賞するなど、地場野菜の良さを組合員に伝えることに力を入れています。

この地産地消のとりくみ、京都生協の地産地消担当職員が実際に地元農家のもとを訪ね、田畑のようすを直に確認し、契約を交わしています。今や契約農家数は200軒近く。それぞれの農家がつくる野菜は、品種や育て方にもその人の個性が表れます。

今回は、肥料や育て方にこだ

わった野菜をつくる2人の生産者を紹介します。それぞれの生産者の、野菜づくりに対する想いやこだわりを聞いてきました。



▲つくだ農園の野菜は、コープ下鴨とコープいわくらに出荷されています。「穫れたて野菜が並び水・金曜日の13時ごろがおすすめ」と、納品担当の吉村美智子さん